

樹々ら悩みぬ

北條民雄に贈る―

月に攀ぢよ

月に攀ぢよ

樹樹ら 悲しげに 身を顫はせて咳きぬ

蒼夜なり

微塵の曇りなし

圓やかに 虔しく 鋭く冴え

唯ひとり 高く在せり

月に攀ぢよ

月に攀ぢよ

樹樹ら 手をとり 額をあつめ

あらはになりて 身を顫ふ

されど地面にどつしりと根は張り

地面はどつしりと足を捉へ

(悲しきか)

(悲し)

(苦しきか)

(苦し)

樹樹らの悩み 地に満ちぬ

彼等はてもなく 呼び應ふ

ああ月に攀ぢよ

月に攀ぢよ

樹樹ら 翔け昇らんとて

翔け昇らんとて 激しく身悶ゆれど

地面にどつしりと根は張り

地面はどつしりと足を捉へ